

### 平成28年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	柿加工品の特産化による駒ヶ根市竜東地区の活性化事業
事業主体 (連絡先)	中沢地区営農組合 (共同実施 竜東あんぼ柿研究会・東伊那営農組合) 中沢地区営農組合 組合長 村上 孝治
事業区分	(6)イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	5,011,730 円 (うち支援金 : 3,035,000 円)

#### 事業内容

##### 1 柿加工品のPR・販売促進

- (1) PRグッズの制作
  - ・のぼり旗・パネル・リーフレット・はっぴ
- (2) PRグッズを活用した販売促進活動
  - ・商談会 (上下伊那・東京・名古屋) の実施
  - ・栄養士会・認定農業者組織等へのPR

##### 2 加工作業の省力化

- ・食品乾燥機、パッケージ用プリンタの導入

##### 3 地域産業化への取組み

- ・新規就農者・農業研修生の雇用
- ・関連商品の開発及び販売
- ・販売店の拡大

#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

##### ①地元ブランド柿の創出・PR

- ・駒ヶ根あんぼ柿を広く知ってもらうことができ、「おみやげ」などに使ってもらえるようになった。

##### ②農家所得の増大

- ・原料柿の精算額を上げることができた。

##### ③加工作業の省力化

- ・作業を省力化することで、若い農業者が兼業で参画することができるようになった。
- ・乾燥容量の関係で過熟によるロスが出てしまった。

##### ④担い手の確保・育成

- ・作業に就いた若い農業者の所得向上に貢献できた。

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- 1 組織運営、企業経営のノウハウを習得し、定着させるため、専門家のアドバイスのもとで人材育成を行い、また、JAや地元企業との連携を深めていきたいと思ひます。
- 2 この事業を地域に還元するため、商工業やサービス業に働きかけて、駒ヶ根あんぼ柿を特産品として使ってもらったり、関連商品を製造してもらえるように取り組みたいと思ひます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【グッズを使ったPR活動】

##### 【目標・ねらい】

- ①地元ブランド柿の創出・普及
- ②農家所得の増大
- ③加工作業の省力化
- ④担い手の確保・育成

※自己評価 【 B 】

##### 【理由】

PR事業により話題性を高めることができました。ハード事業についても、付加価値の向上、作業の省力化が実現できた。